

県立光陵高校

スクール Memory

うみがめクラブ

貴重な生き物研究



福津の豊かな自然を伝え続ける部員たち



ヨウウオの産卵調査をしている。昨年度はビオトープで過去最多の48か所で産卵を確認した。

市内で数年前に捕獲した絶滅危惧種のニッポンバラタナゴは、DNAを分析して純粋な日本の固有種とわかった。現在、同校の水槽コーナーで繁殖させている。市が毎年開催する環境フォーラムや、市外の博物館で研究成果を発表するなど活動は多岐にわたる。

顧問の前田真里・実習助手は「行政や住民の皆さんに多くの関心を寄せてもらい、励みになっている」と話す。部長で3年の加藤航真さん(17)は「クラブ活動は貴重な経験だった。大学に進学しても、こうした取り組みを続けたい」と充実した表情で語った。

◇ (柿本高志)

次回は私立立花高校です。

光陵高校で8日、生き物をテーマにした講座が開かれた。先生はうみがめクラブの1〜3年生の17人。小学生ら約20人に、水槽で飼っている魚を紹介したり、

外来種が生態系に及ぼす影響を説明したりした。副部長で2年の箱崎翔さん(16)は「子どもたちが納得しながら聞いてくれる姿にやりがいを感じる」と笑顔を見せた。

同校のある福津市は、ア

カウミガメの産卵地があるほか、カプトガニなど貴重な生き物が多く生息している。クラブは2009年に、生態の研究や保護を目的に発足した。

市内には、県や福津市、ボランティア団体「どじょうクラブ」が維持・管理している、休耕田を整備した湿地「手光ビオトープ」がある。クラブはこのビオトープを清掃し、毎年冬には絶滅危惧種のカスミサンシ

所在地は福津市光陽台。1980年4月に開校した。生徒数は989人。校訓は「誠実 自主 創造」。英国へ

の海外研修も実施し、生徒支援に力を入れている。ウェトリフティング部は全国大会でも活躍。「うみが

めクラブ」の正式名称は「福津市の自然を学ぶ会」で、創立30周年を迎えるのを機に発足した。

学校データ

掲載写真をカラーでお分けします。読売新聞販売管理部(092・715・5955)か、最寄りの販売店へ。